

歴史

# 編集 基本方針

「新しい時代を担う主権者を育てる」を基本理念とし、  
 18歳選挙権をみすえて、  
 生徒が「社会的な見方・考え方」を働かせた学習を通して  
 「主体的・対話的で深い学び」を実現し、  
 新しい時代の国家・社会の形成者として必要な  
 「公民としての資質・能力の基礎」を育成することを願ひ、  
 本教科書を編集しました。

基本方針

# 1

## 質の高い 学びや授業を 保証する

確実な知識・技能の定着



基本方針

# 2

## 生徒自らが 学びに 動き出す

主体的・対話的で  
深い学びを通じた  
思考力・判断力・表現力等の育成

基本方針

# 3

## 学びを 日々の生活や 社会に活かす

学びに向かう力・  
人間性等を養う



**基本方針 1**  
質の高い  
学びや授業を  
保証する

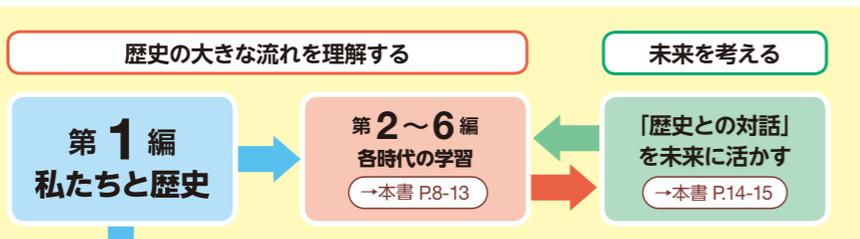
# 教科書をつらぬく新しい流れ

## 歴史的な見方・考え方を働かせる工夫

### 教科書の構成について

導入單元である第1編「私たちと歴史」、各時代の特色を学ぶ第2～6編、未来を構想する学習「歴史との対話」を未来に活かす」の順番で構成され、生徒が歴史の大きな流れを理解して、学んだ歴史をふまえて未来を考えることができるようになっています。

新学習指導要領が示す歴史的分野の授業時数135時間に対して、この教科書は115時間の授業時数で学習が完結できるようにしており、**余裕をもった指導計画の作成が可能です。**



**第1編** 新学習指導要領に対応して、本教科書では「歴史的な見方・考え方」を働かせた学習ができるようにしています。「歴史的な見方・考え方」は **時系列**・**推移**・**比較**・**つながり** を指し、第1編では小学校の歴史学習を振り返る活動を通して、この「歴史的な見方・考え方」を自然に理解することができるようにしています。

### 1 小学校の学習を振り返る

小学校で学習した歴史上の人物や文化財を、親しみやすいイラストと写真で紹介しています。→本書 P.36

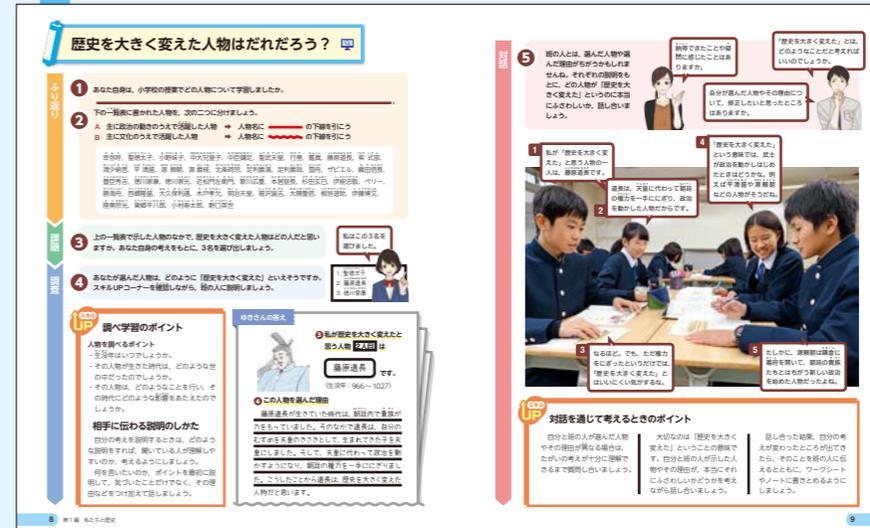


「注目！」  
「歴史的な見方・考え方」を働かせた中学校の歴史学習にスムーズに移行できます。

導入單元である第1編「私たちと歴史」では、小学校での学びを振り返り、「歴史的な見方・考え方」を働かせた学習の仕方を学びます。第2～6編では、第1編で学んだ「見方・考え方」を使って各時代の特色をとらえ(→本書P.8-13)、歴史の学習の最後には、先人たちの知恵を受け継ぎながら未来を構想する学習「歴史との対話」を未来に活かす(→本書P.14-15)に取り組む構成にしています。

### 2 歴史を大きく変えた人物は誰か、考える

小学校で学習した人物のうち、「歴史を大きく変えた人物」は誰かを考えます。また、歴史を大きく変えたとはどのような意味なのか考えることで、年代や時代区分について学びます。



「P.8-9」  
調べ学習や対話による学習にも取り組むことができます。



### 3 「歴史的な見方・考え方」を学ぶ

これまでの学習が、「歴史的な見方・考え方」を働かせた学習であることを確認させ、これらの「見方・考え方」について丁寧に説明し、「見方・考え方」についての理解を深めることができます。



「P.12-13」  
「見方・考え方」を中学校の歴史学習でどのように働かせるのかについては、次ページをご覧ください。



# 何を学び、どう深めるか 授業や生徒の思考の流れに沿った構成

本文は原則1授業時間を見開き2ページとし、この1時間で何を学ぶのか、どのようなことに着目して学習を進めるのかを「学習課題」「見方・考え方」で明確に示しました。また、「見方・考え方」を働かせながら考える問いである「深めよう」を示したほか、右ページの側注欄には学習課題に対応した「確認」を設け、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を企図した学習活動を提示しました。

1

## 導入資料

見開きの学習内容の導入になる資料と、それに関する問いかけを設けています。

関心と意欲を引き出す

2

## 学習課題

この見開きで何を学ぶかを示します。この課題を考えながら学習を進めていきます。

学習に見通しをもたせる

注目!



### 見方・考え方

学習課題の解決に向けて手がかりになる主な見方・考え方の例を示しています。→本書 P.6-7

### 資料活用

→本書 P.22

資料を用いた活動を示すことで、必要な情報の読み取りなどの技能を高めることができるコーナーです。

知識を活用して、課題を考えたり、解決したりできる紙面になっています。



2

## 鎌倉幕府の成立

現在の鎌倉のようす

鎌倉の地形の特徴は何か。

源頼朝 (1147~1199) (源頼朝木像 甲府市 善光寺蔵)

御恩と奉公

切通し 山の一部を切り開いて、鎌倉に通じる短い道がつくられました。

### 1 鎌倉幕府の政治

一 武士のための政治の始まり一

源頼朝と鎌倉幕府 1180年、伊豆にいた源頼朝が木曾(長野県)の源義仲などが、平氏をたおそうと兵をあげ、全国的な内乱が始まりました。鎌倉を本拠として指揮をとった頼朝は、集まってきた武士と主従関係を結んで御家人とし、武家の政治のしくみを整えていきました。頼朝が派遣した弟の義経らは、平氏を追って西に進み、1185年、壇ノ浦の戦い(山口県)で平氏をほろぼしました。その後頼朝は、対立して姿を隠した義経を捕らえ、朝廷にせまって国ごとに守護を、荘園や公領に地頭をおくことを認めさせ、御家人をこの役につけました。さらに、義経をかきましたことを理由に、奥州藤原氏を攻めほろぼし、1192年、頼朝は、武士の総大将として征夷大将軍に任じられました。こうして12世紀の末に鎌倉に立てられた武士の政権を鎌倉幕府といい、幕府の続いた約140年間を鎌倉時代といいます。将軍は、御家人の領地を公認・保護し、御家人を守護や地頭などに任命しました。これを御恩といいます。その代わりに、御家人は京都・鎌倉の警備にあたり、戦いときには、一族・郎党や下人を率いて命がけで合戦に参加しました。これを奉公といいます。鎌倉幕府の組織は、この御恩と奉公の関係をもとに成り立っていました。

## 歴史 +α

学習内容を掘り下げて、歴史の学習を幅広くゆたかなものに行うことができるコラムです。



資料の活用や、話し合いなどの活動から深く学んでいけそうだね。

3

## 本文・図版

十分な文字量を確保し、平易な表現を用いて、生徒の読み取りを支援しました。

丁寧な記述で学習を助ける

注目!



### 深めよう

学習課題の理解を深めるため、見方・考え方を働かせる問いを示しています。

### 時代・世紀のスケール

学習している時代や世紀を、前後の時代も含めて常に確認できます。

4

## 確認

学習課題に対応し、学習内容の理解を確かにする問いを示しています。

1時間の学習をふり返る

→P.72-73

### 基本用語

歴史的分野における基本的な用語について、平易な言葉で解説しています。

### 小年表

この見開きのできごとが、いつ、どのような順番で起こったのかを確認できます。

### 小学校

#### 連携コーナー

小学校の学習や地理・公民とのつながりを示しています。→本書 P.36

#### デジタルマーク

このマークのついた教材は、弊社ウェブサイトにあるデジタル資料で、学習を深めることができます。→本書 P.32

# もっと知りたく、考えたくなる 主体的・対話的で深い学びの実現

第2～6編  
各時代の学習

学習の見通しが立てられます！

導入ページ

本文

→本書 P.8-9

チャレンジ歴史

→本書 P.12-13

本文

学習の振り返りができます！

まとめページ

導入からまとめまでの流れは各編で共通です。こうした学習をくり返すことで、**通史の理解**を確かにします。



この時代の学習で何ができるようになればよいのかを、「めあて」で明らかにしています。また、世界地図や年表を使って、これから学ぶ時代を概観することができます。

## 第3編 中世の日本と世界



古代と中世の絵を見比べよう

目的の絵を見て、それぞれの時代や時代の特徴をみ取り、話し合ってみましょう。(→P.8の地図資料の活用)

めあて

平安時代の貴族の絵と鎌倉時代の武士の絵の姿を比べて、どこがちがうか、どうしてちがうか、この時代ではその姿を帯びていきます。そして、「中世」とはどのような時代か、中世の日本はどのような新しいしくみをつくりあげようとしたのかなど、自分の言葉で説明できるようにしましょう。

←P.64-65

注目!

資料の読み取りから導き出された、この単元の学習の「めあて」が明確に示されています。

本書P.24-27で、第4編の導入図版もご覧いただけます。



資料から前後の時代を比較することができます。

注目!

年表と世界地図を使って、時間軸と空間軸から時代を概観します。

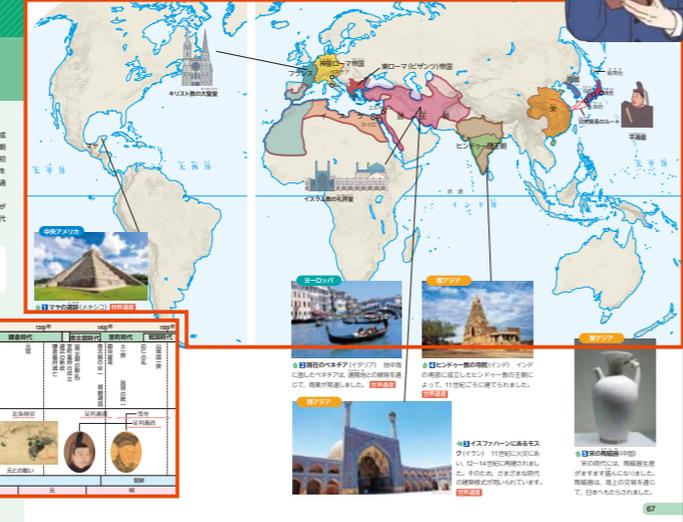
→P.66-67

地図で見る世界の動き

10～12世紀の世界と日本

各地の勢力の成長  
西アジアでは、イスラ教を信仰する王朝が相次いで成立し、南アジアでも、ヒンドゥー教の王朝が相次いで成立しました。東アジアでは、10世紀初めに唐がはるばるすると、10世紀後半に宋が国内を統一しました。ヨーロッパのキリスト教では、異教を退けて教皇が隆盛しました。この時代は、東洋から西ヨーロッパまでの陸路の交通がはびかり、各地でそれぞれの勢力が成長を見せた時代でした。

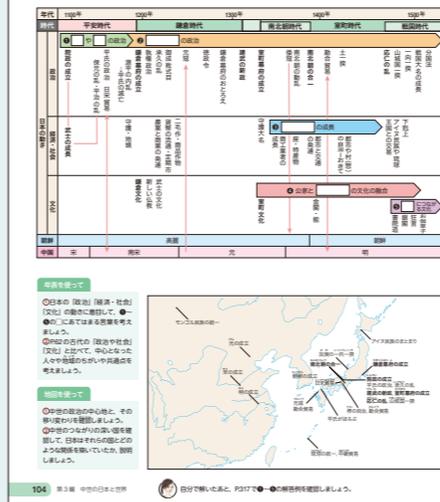
地図を見比べよう  
目的の地図を見て、東洋からヨーロッパまでの陸路の交通がはびかり、各地でそれぞれの勢力が成長を見せた時代でした。



「学習の整理と活用」では、左ページに設けた年表と地図を使って学習の振り返りができるようにしました。右ページに設けた「アクティビティ」では、習得した知識を関連させて時代の特色をとらえる課題学習を示しました。

## 第3編 学習の整理と活用

とらえよう! 「中世の日本と世界」の特色



「法」に着目して、中世の特色にせまろう

学習の流れ

各時代に定められたまじりや法があると、政治や社会など、それぞれの時代の特色を捉えることができます。ここでは、中世に定められた主な「法」に着目し、古代と比較しながら、中世の特色を考えていきましょう。

時代	目録された主な法	目的
古代	十七箇の誓約	
中世	大嘗会	
近世	御田代奉祝文	

私が考える「中世」の特色  
その時代の社会がどのような社会だったのかを確認しながら、自分の考えを述べていきましょう。

アクティビティ

注目!

「アクティビティ」に取り組むことで、「めあて」に対する**学びの成果**を確認し、**自己の成長**を実感できます。

注目!

比較や推移などの適切な「見方・考え方」を働かせて、時代の特色をとらえることができます。



各時代の学習では、生徒が学習のめあてを明らかにし、関心と意欲をもって取り組めるように豊富な写真資料を用いるなど「導入」を充実させています。続く「本文」では、「見方・考え方」「深めよう」を活用することで生徒の理解を助け、第2編から第5編第2章までの各編(章)には「チャレンジ歴史」を設定しました(→本書P.12-13)。また、「導入」に対応する「まとめ」としての「アクティビティ」で、生徒は着実に各時代の特色の理解を深めることができます。

第2～6編 各時代の学習



歴史を面白く、深く学ぶ特設ページ

チャレンジ歴史

資料をもとに、歴史について自分で考えたり、対話したりして、歴史を学ぶ面白さを体験します。資料の読み取りから選択・判断させる学習まで、生徒の発達の段階に応じた教材を掲載し、主体的・対話的で深い学びを実現できるように工夫しました。

主体的な学びを  
促す課題設定

生徒が興味・関心をもって主体的に取り組むことができる課題を設定し、学習に入りやすくなるようにしています。

「チャレンジ歴史」一覧

→P.34-36	第2編	考古学に挑戦！よろいを着た人物のなぞを解こう	つながり
→P.74-75	第3編	承久の乱を通して、古代から中世への変化を考えよう	推移
→P.136-137	第4編	江戸幕府のライバル対策を通して、中世から近世への変化を考えよう	推移
→P.216-217	第5編 第1章	経済発展か、環境保全か、足尾鋳毒事件を通して考えよう	つながり
→P.254-255	第5編 第2章	戦時体制の言論統制とその影響を考えよう	つながり

※「チャレンジ歴史」には、それぞれ1時間を配当しています。

深い学びを  
促す教材

「歴史的な見方・考え方」を働かせて時代の転換を考えたり、当時の国民と同様に選択・判断をしたりするなど、深い学びを実現できるようにしました。

学習の流れ

ステップに沿って学習を進めます。資料の読み取りや意見交換など、さまざまな活動を提案しています。

対話的な学びを  
促す活動

グループでの話し合いや意見交換を通して、多面的・多角的に課題を考えることができます。

↓P.34-36

「チャレンジ歴史」のワークシート

第2編 古代までの日本と世界 チャレンジ歴史 教科書 P.34-36

考古学に挑戦！よろいを着た人物のなぞを解こう

年 組 番 名前 \_\_\_\_\_ 学習日 年 月 日

1 よろいを着た人物について、資料1～4を読んでわかったことをまとめよう。

2 ほかの3人の人物について、資料1～5を読んでわかったことをまとめよう。

3 資料6を読んで、発掘された人々の足あとから、当時の人々がとった行動を考えよう。

デジタル資料を活用して、いつでもどこでも、**自学自習**に取り組めます。





